

ひょうご部落解放・人権研究所

編集・発行 /

一般社団法人 ひょうご部落解放・人権研究所

# HB 通信

Hyogo Buraku Liberation and Human Rights Research Institute

〒 650-0003

神戸市中央区山本通 4-22-25 兵庫人権会館 2 階

TEL : 078-252-8280 FAX : 078-252-8281

e-mail : blrhyg@extra.ocn.ne.jp

URL : <http://blrhyg.org/>

※ URL が変わりました。



## ● 所長の諏訪山だより

### 懲戒場はどこにあるのか

「親権を行うものは、必要な範囲で自らその子を懲戒し、又は家庭裁判所の許可を得て、これを懲戒場に入れることができる」。民法 822 条の条文である。では、この懲戒場とは何なのか。実は、現在の日本には懲戒場など存在しないのだ。たしかに戦前は感化院（「不良行為をなし、またはなすおそれのある児童」を入所させる児童福祉施設で、1933 年に少年教護院と名称変更された。現在の児童自立支援施設にあたる）が懲戒場に充てられていたようであるが、敗戦後、少年教護院は懲戒場とされることはなくなり、懲戒場自体、存在しなくなった（少年教護院に暮らす子どもたちを描いた清水宏監督の劇映画『みかへりの塔』（1941 年）には、坂本武扮する父親が親の言うことを聞かないと言って、小学校高学年の娘を教護院に預けに来るシーンがある）。

では、存在もしないものがどうして民法の条文に明記されているのであろうか。実は、現民法の親権に関する条文は、親権を婚姻している父母の共同と変更した点、兵役や親族会に関する項目を削除した点などを除けば、戦前の内容とほとんど変わらないのである。たとえば、民法 821 条の居住指定権「子は、親権を行う者が指定した場所に、その居所を定めなければならない」や民法 823 条の職業許可権「子は、親権を行う者の許可を得なければ、職業を営むことができない」など、親は未成年の子どもに対して、とんでもない権利を有しているのである。つまり、親権は「未成年の子を養育・監護する権利及び義務」とされるが、この権利の部分が非常に強いままなのである。親権は、parental authority の訳（親の権威）であるが、現在の欧米では、義務の部分が強調され、権利の部分は、子どもを支配する権利ではなく、子どもの権利を擁護する親の権利、子どもの意思を代弁する親の権利といったものに限定されているようである。

2011 年の民法改正で、懲戒場の規定は削除されたが、親の懲戒権はそのまま残り、親の権利の面が強いことに変わりはない。親権だけではなく、家族制度に関する法律には数々の問題点がみられる。たとえば、夫婦同姓の強制、離婚後 300 日以内に生まれた子は前夫の子とみなすという規定、女性にだけある再婚禁止期間などである。しかし、国会にはそれらを変えようとする気配が感じられない。新しい家族、多様な家族の生き方を尊重しようとする政治家が少なすぎるのだ。これは前号でもふれた、性について真剣に議論できる政治家が少ないことと同様である。結局は、私たちがこうした政治家を育てていくしかないのだが、先の衆院選にみるように、展望は暗いままである。

所長 石元清英

## まんがのすゝめ

### 『百日紅』上・下

杉浦日向子／ちくま文庫／1996年／各680円(税別)

遙か昔の遠い時代を、ぐいと身近にたぐりよせることができるのは、漫画の大きな力である。『百日紅』は江戸時代の絵師・葛飾北斎と、自らも絵師であり、ときに父の代筆も勤めていたという娘のお栄、居候の弟子善次郎を通して、江戸時代の市井の人たちの生活や風俗を生き生きと描いた傑作で、読むものを瞬時に江戸へと誘う。

「奇行」が多いことでも知られる北斎は大家として名を馳せたが、その名声に頓着せず長屋に暮らし、部屋はいつも書き損じの紙やゴミだらけ。「散らかりゃ家移りすりゃいい」と、生涯90回以上も引っ越しを繰り返した。雅号もそのときどきの気分で「画狂老人」「百姓八右衛門」などと、コロコロ変えた。90歳で亡くなるまで創作意欲は失わず、死の間際にも「あと10年、いや5年描かせてもらえたら、本物の画工になれるのに」と言ったという。

情には厚いが一線を越える干渉はしない。暑い夏には風鈴で風を呼び、冬はどてらを羽織って絵を描き、疲れりゃそのまま横になる。人々は自然や怪かしと共存しながら、たおやかに生きている。「文明」とはなんぞや? と腕組むほどに、本書に描かれる江戸の生活は、貧しくとも豊かである。

作者の杉浦日向子は、江戸風俗研究家でもあり、作品の時代考証の正確さには定評があった。NHKの「コメディーお江戸でござる」で江戸についてのあれこれを、にこやかに解説する姿をご記憶の方がいるかもしれない。

杉浦が漫画家を引退し「隠居生活に入ります」と宣言したのは1993年、まだ35歳のときだった。新作を心待ちにしていた私は「隠居ってなによ～」と驚き、嘆き、悲しんだ。もっともっと彼女の作品で、江戸を旅してみたかった。

のちに、そのころから難病のため、無理が利かなくなっていたことを知った。そして2005年、下咽頭がんのため、46歳という若さで亡くなった。

杉浦が亡くなってから10年になる。今年『百日紅』はアニメ映画になって公開され、江戸の治安維持の任を受けていた彰義隊を描いた作品『合葬』が実写映画化されるという。新作漫画はもう読めないけれど、杉浦ワールドが形を変えて今生にはばたく姿を、ファンとしてはしっかり楽しまなければ、と思っている。(K)



## 本の紹介

### 『あたまにつまった石ころが』

絵: ジェイムズ・スティーブソン、文: キャロル・オーティス・ハースト、訳: 千葉茂樹  
光村教育図書、2002年、1400円(税別)

切手にコイン、人形やジュースのビンのふた。みなさんも集めたこと、ありませんか? わたしの父は、石を集めていました。周りの人たちは言いました。

「あいつは、ポケットにもあたまのなかにも石ころがつまっているのさ」

石ころの大好きなお父さんのことを娘が描いた絵本です。

「大人になったら何になりたいんだい?」と聞かれたお父さんは、「なにか、石とかんけいのあることだったらいいのになあ」と答えます。「石ころじゃあ、金にならんぞ」

大人になったお父さんはガソリンスタンドを始めます。店の中に棚を作り、あちこちで集めた石を飾りました。やがて世界恐慌が起り、ガソリンスタンドに来るお客さんはなくな

りました。お父さんは店をたたみ、引越しをします。古い家の修理をしながら、屋根裏部屋に石の棚を作ります。日雇いの仕事をしながら、仕事の日は科学博物館に通い、石をながめます。

そこでの館長さんとの出会いから、博物館の夜の管理人となり、のちに鉱物学部長、館長になるのですが、館長さんは言います。「あなたのように石にくわしい人が専門家として必要だって、とうとうわかってもらえたのよ」「大学にもいってないのに?」「ここに必要なのは、あたまのなかとポケットが石でいっぱいの人だって言ったのよ」。

お父さんが情熱を傾けたのは、石や鉱物だけでなく、「学ぶ」こと、そのものです。何かに夢中になれる幸せと豊かさ。作者はあとがきで、「父ほど幸福な人生を送った人を、私は他に知りません」と書いています。

ところでこの本、なんと小学校の教科書に載っているようです。たくさんの子どもたちに読んでほしいとは思いますが、「一つのことに打ち込めば後になって実を結ぶ」なんてくだらない話にするのはもちろんのこと、どんな形であれ、あんまり「解釈」してほしくないなあとも思います。絵本は、読んですぐ何か変化が起こる、というものではありません——というか、世の中のほとんどのものがそうです。世界は多様だし、人や社会はゆっくり変わっていくものです。

「費用対効果」「スピード感ある〇〇」なんて言葉に毒されたおとなも、新年に手に取ってみませんか。なにかがじわっと伝わってきて、ずっとずっと後になってふと心に浮かんでくる。きっとそんな大事な1冊になる、と思います。

(H)



.....  
2014年度『人権歴史マップ』連続セミナー第5回

## 「『破戒』の市村弁護士モデル、立川雲平」

■日時:2015年1月24日(土) 14:00～15:30 ■場所:兵庫人権会館2階  
■講師:朝治武さん ■参加資料代:一般800円/会員・定期購読者・学生500円

1906年、島崎藤村(1872～1943年)は、部落差別を描いた小説『破戒』を発表しました。この作品は大きな反響を呼び、詩人だった藤村が小説家へと転身するきっかけとなりました。藤村の同時代人であった夏目漱石は「明治の小説としては後世に伝ふべき名篇也」と高く評価しています。日本文学史上初の本格的な自然主義文学として高く評価されてきましたが、同時に、主人公の生き方や部落差別の描き方等について、様々な批判がなされてきました。



立川雲平

この物語に登場する市村弁護士は、淡路島出身の立川雲平(1857～1936年)がモデルであると指摘されています。雲平は当初小学校の教師でしたが、自由民権運動に身を投じ、弁護士となって淡路初の弁護士事務所を開設。後に信州に移転し衆議院議員となり、このころ藤村とも出会ったと言われています。教師、弁護士、代議士としての活動は異彩を放ち、その誠実かつ精力的な生き方は特筆に値します。

2014年度第5回目の人権歴史マップセミナーでは、立川雲平について、大阪人権博物館館長の朝治武さんにご講演いただきます。

## フィールドワーク のご案内

研究所では、これまで神戸や姫路等を中心にフィールドワークを企画・実施してまいりました。今後徐々に各地のコースを充実させていく予定です。フィールドワークのご希望がありましたら、ぜひとも研究所にご相談ください！

※所要時間、テーマ、訪問先、予算などのご要望をお伺いしてコースを立案します。こんな場所に行きたい、こんなテーマでできないか等々お申し出ください。  
※人数、企画内容（講師の人数や訪問場所）によって費用は異なります（要相談）。

### ▶フィールドワーク実施例

#### ○生田川・賀川記念館コース

外国人居留地と生田川付替えの関係、新川部落の形成と水平社運動、賀川豊彦の活動などについて学びます。

#### ○湊川・番町地区コース

番町部落の成り立ちと取り組み、湊川の付替えによる地区への被害、湊川高校における取り組み紹介や阪神・淡路大震災の被害と復興などについて学びます。



湊川隧道

#### ○姫路市御着・高木の皮革産業コース

御着では皮革研究家の指導のもとに皮なめし・毛梳きを実体験。古くより「白なめし」で有名な高木地区では、高木の歴史と皮革産業について学びます。また水平社が労働運動を支援し村ぐるみの大争議になった北中皮革争議の跡などをめぐります。

#### ○たつの市松原の皮革産業コース

現在国産皮革の約8割を生産するたつの市松原地区をまわりながら、松原の取り組みや皮革業に対する差別、皮革業の現在、映画「王将」で有名な棋士・阪田三吉と解放運動家との関係などについて学びます。



南京町

#### ○神戸華僑の歴史と孫文コース

中国情緒あふれる関帝廟などをまわりながら、神戸で活躍してきた華僑の歴史や、神戸での孫文の足跡を学びます。

#### ○靴のまち長田と在日コリアンの歴史コース

在日コリアンが重要な役割を果たしてきた神戸のケミカルシューズ産業の歴史とともに、在日コリアンの歴史と生活などについて、工場見学なども織り交ぜながら学びます。

※その他、中世から現代にかけての播磨と朝鮮半島との関係を学ぶコースや、加古川食肉センター見学なども行いました。

### 事務局から

- か、か、からだか・・・動かない・・・片づけなくてはいけないことが沢山あるのに・・・どうして?? もしかして妖怪の仕業!! にしてしまうのは、私だけ(^\_^) (I)
- 我が家の老猫は炬燵のスイッチをオフにすると何時間でも鳴きわめき抗議する。根負けしてオンにすると姿を消し一声も発しない。うらやましい生き方だなーと思うこの頃。(Ka)
- 北海道で犬ぞり体験。ワンコたちは吹雪の中、15キロ

も走ってくれました。大自然の中、ワンコと共に過ごした最高の時間。私もアイヌ民族になりたい♡(ひ)

- これを書いている今日は、新月と冬至が重なる「朔旦冬至」。太陽のエネルギーが大きくなり、月が満ちていく「復活の日」。気持ち新たにスタートを♪(H)
- 新年度の「人権歴史マップセミナー」は、部落史を中心に豪華講師陣でお届けします。日程・内容は近日公開。お楽しみに！ 新年もどうぞよろしくお願いたします。(K)